

リスクを理解する（後編）

『**リスク**を理解する（前編）』では何故運用・投資をしないといけないのか
と言うことと、リスクとは何かを解説していきましたが、今回の後編ではリスク
をコントロールする方法について具体的にお伝えしていきます。一般的に運用
には3つの「知恵」（あるいは運用の3つの「基本」）があると言われています。
この文章を書いている2020年3月現在は新型コロナウイルスの影響で、さ
まざまな行事が中止になり、学校も全国的に休校になり、経済に大きな影響を及
ぼしている真っ最中では。連日ニューヨークダウ、日経平均（日経225）の下
落や為替相場の急激な円高。ちょっと、寄り道ですが『経済』とは元々中国古典
に登場する言葉で『経世済民』からきているそうです。意味は「世を経（をさ）
め、民を済（すく）ふ」と言うことで、今日でいう経済のみならず、政治・統治・
行政全般を指す広い意味があるそうです。今回のコロナショックでは、政治と経
済が強く結びついていることを再認識させられます。毎日のように経済的なニ
ュースが流れる今、金融について学ぶ良いタイミングと思い読み進めていただ
き、データと経験則に基づいた・じっくりと冷静にリスク（ブレ）と上手に付き
合う『運用の基本法則＝運用の3つの知恵』をご理解いただければ幸甚です。

では、 1つ目の知恵（基本）、**資産分散**について。以前の資産形成コラムでもお伝えしたことはあるので、復習になります。意味は運用にあてる資金の全額をひとつの運用対象に集中させるのではなく、値動きの異なる複数の運用対象に分けて運用することを資産分散と言います。値動きの異なる資産を組み合わせることで、資産全体の期待リターンを維持しながら、資産全体のリスク（ブレ）を抑える効果があることが知られています。これを『ポートフォリオ理論』として体系化したアメリカの経済学者ハリー・マーコビッツは、この業績が認められてノーベル経済学賞を受賞しています。

運用の世界で有名な格言のひとつ「すべての卵をひとつのカゴに盛るな」に代表されるように、万一すべての卵を入れたカゴを落としてしまったら？もちろん、卵はすべて割れてしまいます。しかし、いくつかのカゴに分けて盛れば、ひとつ落としても残りは無事です。長い目で着実に運用を続けていくには、絶対に忘れてはいけない鉄則です。

次に、 2つ目の知恵（基本）、**長期運用**について。今回のコロナショックをはじめ、数年前のチャイナショック、もう少し遡ってギリシャショックやリーマンショックでさえ、短期的な価格のブレは長期的視点からは一通過点にすぎません。運用期間を長くとり、資産価格の変動を長期的な視点で捉えることで、短

期的な価格のブレによる運用資産への影響はならされ、安定的なリターンを期待できる可能性が高まります。また、長い期間にわたって資産運用を続けていると、投資期間の間に発生する配当や利子などを再投資することができるため、複利の効果を得る可能性が高まります。急がば回れ。時間を味方につけて、じっくりと腰を据えて運用に取り組むことが、長期運用の効果です。

ちなみに、オマハ（ネブラスカ州・オマハ）の賢人こと世界長者番付常連のアメリカ人投資家のウォーレン・バフェットは、一度買った株式を「永久保有（株式の保有期間は永遠）」する理念を掲げています。安く買って高く売るということが株式売買の鉄則のように言われますが、それが出来ればもちろん誰でも利益を享受出来ます。しかし、このやり方には3つのデメリットがあります。1つ目は、精神的に疲弊する。2つ目は、短期での取引になるため、利幅が少ない。3つ目は、短期で利益を確定させていると、その都度税金が発生してしまい、さらに利幅を減少させてしまいます。以上のような点からも、長期運用がいかにリスク（ブレ）をコントロールして運用成果を安定させるかが分かります。バフェットには他にも優れた投資理論がありますので、一度検索して見てください。コロナウイルスの一件で、経済のみならず感情を優先して行動することが、いかに危険かが理解できると思います。

最後に、 3つ目の知恵（基本）、**時間分散**について。運用対象を分散し、長期に取り組む姿勢を保ったうえで、時間を分散する手法を身につければ、より安定したリターンが期待できます。価格のブレが大きい運用対象に投資する場合、投資する時期やタイミングによってリターンのブレも大きくなる傾向があります。時間分散とは、運用対象を一時点で一度に買い付けるのではなく、時期を分けて買い付けることです。たとえば、定期的に一定の金額で投資対象を購入し続ける投資方法は『ドル・コスト平均法』と呼ばれています。これは、価格が高いときには少ない数量を、価格が安いときには多い数量を買い付けることで、結果的に全体の買い付けコストを低く抑えることができる手法です。長期運用とドル・コスト平均法を組み合わせることは、有効な資産運用方法の1つと言えます。

なお、ドル・コスト平均法に≒時間分散についてより詳しく知りたい方は、『半値になっても儲かる「つみたて投資」』：星野泰平・講談社+α新書を、手に取ってみてください。とっても参考になりますよ。そして、この方法を地道に続けていけば、多くの日本人が大損をして、二度と株なんかには手を出さないといい、子どもや孫にまでやっぱり元本保証の預貯金が一番と強く言い続けることになった、バブル崩壊の時でも涼しい顔をして投資を続けることが出来たのです。いや、むしろ喜ぶことさえ出来たのです。

今、世の中は少々混乱しています。経済は人々の生業（生産やサービス）で成り立ち、感情によって大きく揺れ動きます。人や物の流れが停滞すると自然とお金の動きも停滞して経済は減速します。そんな時でも、正確にはそんな時だからこそ、感情に流されてマスクやトイレットペーパーを買い溜めして、オークションで自分だけ利益を得ようと考えたり、デマや噂に左右され感情的に必要以上（周りに影響を与えてしまうくらい）のものを買い込んでしまうのではなく、冷静に価値あるものを見極める視点を養いたいものです。以上、前編に続き後編で『リスク』そのものを理解していただけましたでしょうか？少々専門的な用語や考え方もありますが、決して難しくはないと思います。この考え方を理解していただき、次は違う視点から『金利を味方につける』へと繋げていきたいと思えます。では、次回も楽しみにしててください。

S L 2 3 0 4 - 3 2 2 0 - 4 2 8 1

ソニー生命保険(株) 大分支社

〒 870-0029 大分市高砂町 2-50

オアシスひろば 21 9 階

TEL 097-532-9200

ライフプランナー 山田新悟